

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

[評点の見方](#)

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > 評価結果ダイジェスト

評価結果ダイジェスト

▼全体の評価講評

▼サービス分析結果

▼利用者調査結果

▼事業者のコメント

平成17年度

精神障害者小規模通所授産施設

事業所名称	食茶房むうぶ
評価機関名称	社団法人 東京社会福祉士会
評価者	修了者No.H0301049 修了者No.H0306011 修了者No.H0401003 修了者No.H0306071
評価実施期間	2005年12月24日～2006年3月15日

全体の評価講評

詳細はこちらから

💡特に良いと思う点

- ・利用者の暮らしやすい地域作りを目指した積極的な取り組み
- ・よりよいサービス提供に向け、事業所を支える理事会の効果的役割
- ・徹底した人権尊重への配慮と支援の実施

✓さらなる改善が望まれる点

- ・障害者自立支援法施行に伴う中長期計画の見直しと地域での取り組み
- ・より豊かな支援体制の構築
- ・先駆的事業者としての役割を期待する

[このページの一番上へ](#)

サービス分析結果

詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画などに基づいて地域生活支援を行っている	A ⁺
【講評】 続きを見る	
・利用者とは職員は日常的な会話や相談、作業を通して意思疎通を図っている。加えて、1年... ・メンバーミーティングを毎月定例で開催している。法人や事業所の行事案内や前月分の工... ・毎日行う朝のミーティングでは「一人一言」の時間を設け、利用者と職員は自分の伝えた...	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A ⁺
【講評】 続きを見る	
・レストラン事業を作業内容としている。作業内容は①仕込み(調理等)②営業準備(清掃... ・工賃支給の方法は、「工賃支給の方法」によって全利用者に書面で周知している。毎月開... ・作業内容はメンバーミーティングで出された意見を受け、より多くの、より幅広い利用者...	

3. おいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

A⁺

【講評】[続きを見る](#)

- ・「食の保障」が重要と考え、レストランを事業内容に決定した経緯があり、基本に沿った...
- ・食事時間は、作業形態から交代制となっている。朝のミーティングで各自の食事時間帯の...
- ・家庭での日常的な食事への配慮も行っている。事業所を欠席する場合も事業所の弁当を割...

4. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

A

【講評】[続きを見る](#)

- ・体調悪化時のサインと対応への希望を定期面談で確認している。毎日の朝ミーティングで...
- ・作業中に疲れた表情があった時や集中できない様子が見られた時には、職員から休憩を取...
- ・年に1回、都の保健所で健康診断を実施している。必要に応じて、結果を利用者に個別に...

5. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A⁺

【講評】[続きを見る](#)

- ・レクリエーション活動とクラブ活動をそれぞれ月1回行っている。クラブ活動はコーラス...
- ・メンバーミーティングを月1回、開催している。利用者の中で書記と司会を決め、レクリ...
- ・クリスマス会やバザーなど大きな行事は、3ヶ所の事業所合同で開催している。メンバー...

6. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A

【講評】[続きを見る](#)

- ・家族への連絡は、利用者の希望がある場合に限り行っている。利用者の平均年齢は40...
- ・利用開始時、及び定期面談では、緊急の場合に備えて家族など、連絡先を確認している。...
- ・三鷹市内には、地域の精神障害者家族会「あおき会」があり、利用者家族も入会している...

7. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A⁺

【講評】[続きを見る](#)

- ・事業所内の一角はギャラリーと情報コーナーになっている。幅広い市民の活動発表の場で...
- ・メンバーミーティングや朝ミーティングでは、地域で行われる様々な行事や研修などを積...
- ・必要に応じ、社会資源の利用支援を行っている。ヘルパー講習会などへの参加申し込みの...

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

利用者調査結果

▶ [詳細はこちらから](#)

※読み上げソフトをご利用のかたへ
パーセンテージの読み上げは「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「無回答」の順番で読み上げられます。

有効回答者数/利用者総数
19/24

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

1.施設の中は安全に動けるようになっていますか	36.8%	57.9%	5.3%	いいえ:0.0%
2.施設は清潔で快適ですか	63.2%	26.3%	5.3%	5.3%

3.あなたがやってみたい と思うような仕事や活動 内容になっていますか	73.7%	15.8%	5.3%	5.3%	
4.施設に来ることで、安 定して毎日が過ごせるよ うになりましたか	78.9%	10.5%	5.3%	5.3%	
5.就労意欲が湧いてくる ような活動や支援があり ますか	73.7%	21.1%	5.3%		いいえ:0.0%
6.仲間と交流できるよ うな場所や機会などがあ りますか	68.4%	26.3%	5.3%		無回答・非該当:0.0%
7.仕事は楽しいですか	63.2%	36.8%			いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
8.工賃・給料の支払いの しくみは、わかりやすく説 明されていますか	73.7%	15.8%	10.5%		無回答・非該当:0.0%
9.施設の職員に気軽に 相談できますか	78.9%	15.8%	5.3%		無回答・非該当:0.0%
10.施設職員以外の人 にも相談できることの案内 がありますか(通院先・ 入所先の職員や区市・ 苦情受付の第三者委員 など)	63.2%	10.5%	21.1%	5.3%	
11.職員は他の人に知ら れたくないあなたの秘密 を守るなど、プライバシー を守ってくれますか	94.7%	5.3%			いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
12.あなたは施設で人権 が尊重されていると思い ますか	57.9%	31.6%	10.5%		無回答・非該当:0.0%
13.職員はあなたの決め たことを大事にしてくれ ますか	89.5%	5.3%	5.3%		いいえ:0.0%
14.職員はいつも同じよ うに接してくれていますか	78.9%	15.8%	5.3%		いいえ:0.0%
15.利用者同士がうまく いかないときに、職員は間 に立って対応してくれま すか	73.7%	26.3%			いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
16.施設では、あなたの 日常生活への気遣いがあ りますか	84.2%	15.8%			いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
17.あなたの目標又は計 画をつくる時、職員はあ なたの希望や意見を聞 いてくれましたか	78.9%	21.1%			いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
18.あなたの目標・計画、 状態に合わせた手助け がありますか	68.4%	26.3%	5.3%		無回答・非該当:0.0%
19.【過去1年以内に利用 を開始したと答えた方 に】利用する前に、施設 での生活や支援内容な	70.0%	30.0%			いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%

ど、知りたいことについてわかりやすい説明がありましたか	
20.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設のサービスなどの考え方を知る機会(説明、掲示など)がありましたか	60.0% 40.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
21.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設の説明を聞いて、自分で施設を利用することを決めましたか	90.0% 10.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
22.あなたは不満や要望を職員に気軽に話すことができますか	63.2% 26.3% 5.3% 5.3%
23.職員は不満や要望に対してきちんと対応してくれていますか	57.9% 36.8% 5.3% いいえ:0.0%

■ はい
■ どちらともいえない
■ いいえ
■ 無回答・非該当

[このページの一番上へ](#)

事業者のコメント

* 以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) |
 [サイトマップ](#) |
 [メルマガ登録](#) |
 [ご意見・ご要望](#) |
 [特集](#) |
 [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団
 【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > 全体の評価講評

全体の評価講評

▼全体の評価講評

▼コメント

平成17年度

精神障害者小規模通所授産施設

事業所名称	食茶房むうぶ
評価機関名称	社団法人 東京社会福祉士会
評価者	修了者No.H0301049 修了者No.H0306011 修了者No.H0401003 修了者No.H0306071
評価実施期間	2005年12月24日～2006年3月15日

全体の評価講評

💡特に良いと思う点

● 利用者の暮らしやすい地域作りを目指した積極的な取り組み

1987年「三鷹市に精神障害者の共同作業所づくりを進める会」として発足し、10年で3つの事業所を開設、2003年に社会福祉法人格を取得している。三鷹市障害者福祉懇談会の発足当時から主要メンバーであり、住み良い街づくりを目指す市との協同步調を取りながら、積極的な提言や要望を行い、障害者施策の方向性にも大きな影響を与えている。また、むうぶ舎バザーは、住民参加の盛大なイベントとなっている。地域での相談活動に端を発した当法人は、長く地元根付き地域に密着した活動を行い、障害者福祉の拠点的作用をも担っている。

● よりよいサービス提供に向け、事業所を支える理事会の効果的役割

理事会は理事会方針として、利用者が安心できる施設運営のためのサポートと、職員チームへのサポートを位置づけている。理事会計画を明文化し、理事が直接勉強会、スーパービジョンを行い、また、各事業所への訪問も実施している。理事と職員は信頼関係に基づき、両者が一体となって法人の運営に臨み、質の高いサービスを安定して提供している。また、職員の研修計画も明文化し、法人が積極的に専門性の高い職員を育てよう取り組んでいる。外部講師には優秀な人材を登用し、法人としての責任を果たすべく取り組む姿勢は高く評価される。

● 徹底した人権尊重への配慮と支援の実施

レストラン事業を授産種目としている。レストランや事業所としての活動は、これまで数多くの新聞や雑誌にも取り上げられ、標準的な事業所の水準を超えたものである。サービス提供に際し、事業所の出来ることと出来ないことを明確にし、揺らぎのない視点で支援を行っており、利用者の選択に際して「就労の場」と位置づけている。支援は利用者と同じ目線に立って行い、利用者の意見や意向、要望や提案を受け、事業内容や作業方法の改善に随時取り組んでいる。利用者の人権を尊重した姿勢は徹底し、支援に際し一貫したものとなっている。

✓さらなる改善が望まれる点

● 障害者自立支援法施行に伴う中長期計画の見直しと地域での取り組み

障害者自立支援法施行に伴い、今後小規模通所授産施設は形態変更の予定がある。現行の法制度では想定できなかった、様々な支援の組み合わせが可能となる。既存の中長期計画を生かしながら、今後の法改正の中でどの方向が事業所の特色を最大限に活かすことができるかを詳しく検討する予定である。誰もが住み良い街づくりを進めてきた三鷹市との間で、これまで培ってきたパートナーシップをさらに深めるとともに、利用者の生活を脅かすものを少しでも減らし、よりよい支援を可能とするための働きかけを行うなど、法人の持つ力を遺憾なく発揮されたい。

● より豊かな支援体制の構築

3名の常勤職員と9名の非常勤職員の役割は、情報の開示、利用者とのかかわりなどで明確に線引きをしている。相互の信頼関係は良好であり、助け合い、認め合う姿勢が職員調査から窺われた。これまで非常勤職員からの支援を限定していたため、利用者への対応や情報保護の観点からの研修は積極的に行ってこなかったが、来年度の雇用契約の締結に際し、情報保護規定や研修の必要性を感じ、現在理事会で改善に向け検討中である。非常勤職員の果たす役割の重要性を再確認することで、さらに豊かな支援体制が構築されることを期待する。

● 先駆的事業者としての役割を期待する

障害者自立支援法施行に伴い利用者数の確保が重大な課題となるため、今年度、幅広い利用者が利用できるよう、短時間作業の創設、遅番作業の確立、試作品製作の作業化などを行ってきた。また、工賃の増収を目指すことは、一方で利用者への負担増となるため、作業への取り組みも十分な配慮を行ってきた。様々な課題とジレンマを抱えながらも、利用者の豊かな生活を支え、福祉的土壌を作り出すため、充実した活動を続けている。厳しい社会情勢の中、引き続き、他の事業所を牽引する実践を続け、オピニオンリーダーとしての活躍を期待する。

[このページの一番上へ](#)

コメント

利用者を対象としたアンケート調査、経営層と職員による自己評価を経て、資料の読み込みと事前打ち合わせを行った。訪問調査に際しては、法人の理事も兼ね、法人の考え方や取り組みも精通する施設長と、立ち上げ当初からの主要メンバーで、これまでの経過を熟知する職員に出席いただいた。訪問調査当日は、事業所の見学と試食を行い、作業内容を確認し、併せて書類の確認も行った。また、精神保健福祉の特殊性を考慮し、評価には実務経験のある精神保健福祉士を2名確保した。

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)

【問合せ】メールアドレス：fukushiit@fukushizaidan.jp 電話：03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > 組織マネジメント分析結果

組織マネジメント分析結果

▼リーダーシップと意思決定 ▼経営における社会的責任 ▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
▼計画の策定と着実な実行 ▼職員と組織の能力向上 ▼情報の保護・共有 ▼カテゴリ1～7に関する活動成果

平成17年度

精神障害者小規模通所授産施設

事業所名称	食茶房むうぶ
評価機関名称	社団法人 東京社会福祉士会
事業評価実施期間	2006年1月13日～2006年3月15日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A+
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A+
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A+
【講評】 詳細はこちら - 地域の社会資源がない頃から、一般市民が中心となって精神障害者の作業所を立ち上げて... - 法人化や、自立支援法の施行等、事業を取り巻く基盤が大きく揺れ、課題が次々と押し寄... - 年3回発行される法人広報誌「むうぶ舎だより」は、利用者やその家族、関係者、一般市...	

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A+
3. 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている	A+
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A+
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A+
3. 地域の関係機関との連携を図っている	A+
【講評】 詳細はこちら - 市内に精神障害者の家族会もなく、社会資源も乏しい状況の中で、暮らしやすい街づくり... - ボランティアの受け入れは、中学生の職場体験や夏体験ボランティアなど、心安らぐ街づ... - 事業所自身が安心できる食材を使用した食を、比較的手軽な価格で地域住民に提供してお...	

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）	A+
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A+
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A+
【講評】 詳細はこちら - 利用者の要望を聞く機会を、毎朝のミーティング、毎月のメンバーミーティング、個別相... - 精神障害者地域支援連絡会、障害者福祉懇談会、保健所業務連絡会、社会福祉協議会厚生... - 障害者自立支援法の成立を受け、昨春秋には、利用者の福祉サービス利用状況や利用者負... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	A
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	A+
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	A+
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら - 授産収益や通所人数、新規受入れ人数の目標を年度の計画として数値化し、毎月の報告を... - 利用者との定期面談で緊急連絡先や病院などの関係機関を確認し、災害時に備えている。... - 個別援助計画、所内職員会議での検討結果、各所報告等の情報を、施設長も参加する理事... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A+
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	A+
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	評点
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	A+
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	A+
【講評】 詳細はこちら - 職員研修について今年度は、特に事業方針にも掲げ職員の能力向上に努めている。理事会... - 研修の講師やスーパービジョンの実施者については、法人として情熱的な努力を行い、医... - レストランという事業の特質上、調理作業補助を行う非常勤職員は、立ち上げの時から関... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している	A+

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・ 小規模授産施設は、個人情報保護法の適用事業所ではないが、運営管理規定、利用契約書...
- ・ 個人情報の保護について、職員のみならずボランティアにも口頭で説明を行っている。利...
- ・ 利用者の個人情報は紙媒体で管理しており、記録類は特定の部屋で鍵付きのロッカーで保...

評点の内容
▶ [詳細はこちら](#)

[このページの一番上へ](#)

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら	
・ 理事会において事業方針を明文化し、理事会が計画的・主体的に事業運営に関わるように...	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら	
・ 経費削減のため職員の人数を削減したが、職員の努力により利用者に大きな影響もなく、...	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら	
・ 利用者の要望を受け、作業内容を多様化し、参加しやすい、多様なニーズに応じられる体...	
4. 前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
・ 今年度は具体的な財務成果は出ていないが、次年度、または、長期的な財務の安定のため...	
5. 前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	A+
【改善の成果】 詳細はこちら	
・ 市内の連絡会や勉強会に積極的に参加し、情報を集めるだけでなく、その運営に大きく関...	
【講評】 詳細はこちら	
・ 理事会が果たす事業運営での役割を文書化することで、理事、職員間の共通認識と信頼関... ・ 利用者が学習会や集会に参加した後、事業所に戻って利用者が自ら報告を行う機会を設け... ・ 職員勉強会に力をいれ、「個人情報の取り扱い」の学習会や、「自立支援法」の勉強会を...	
	評点の内容 ▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > サービス分析結果

サービス分析結果

▼サービス提供のプロセス項目 ▼サービスの実施項目

平成17年度

精神障害者小規模通所授産施設

事業所名称	食茶房むうぶ
評価機関名称	社団法人 東京社会福祉士会
事業評価実施期間	2006年1月13日～2006年3月15日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供	評点
1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している	A ⁺
【講評】詳細はこちら - 利用希望者が入手できる施設情報として、「パンフレット」、「むうぶ舎だより」がある... 「パンフレット」「むうぶ舎だより」は、多くの市民の目に留まるよう、広く病院、コミ... - 見学希望者には、予約した日に担当職員が30分程かけて施設見学と説明を行い、質問や... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
サービスの開始・終了時の対応	評点
1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	A
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A ⁺
【講評】詳細はこちら - サービスを利用する手順は、「正式入所手続きについて」に記しており、利用予定者に事... - 体験利用が終了する前に、正式な通所について検討を行っている。利用者、担当者、関係... - 利用前の面接から体験通所、正式入所まで、一人の担当者が一貫して対応することで、継... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
個別状況の把握・記録	評点
1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	A ⁺
2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している	A ⁺
3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	A
4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A ⁺
【講評】詳細はこちら - 利用者の状況を理解するために、入所当初は担当職員を決め、密接なコミュニケーション... - 支援計画は、担当職員に申し出ること、変更、見直しできる旨伝えている。体調の変化... - 一人ひとりの記録を充実したものとするため職員会議の場を使い個人記録を記している。... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	評点
1. 利用者のプライバシー保護を徹底している	A ⁺
2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A ⁺
【講評】詳細はこちら - 利用者のプライバシー尊重への配慮は徹底しており、個人情報の管理は常勤職員に限り管... - 利用者との定期面談は、プライバシーが確保できるスペースで実施している。また、利用... - 理事によるスーパービジョンにより、職員の気づきが生まれ、日常の支援の再確認が可能... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
事業所業務の標準化	評点

1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	A
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	A
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	A
【講評】詳細はこちら - 利用者への支援マニュアルは、文書化してはいないが、対応は細かく定めており、職員間... - サービスの標準化のため、各種の会議を行っている。朝ミーティングではシフト表に基づ... - 職員が安定した専門性を発揮できるように、定期的にスーパービジョンや職員研修を行っ...	



[このページの一番上へ](#)

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画などに基づいて地域生活支援を行っている	A ⁺
【講評】詳細はこちら - 利用者と職員は日常的な会話や相談、作業を通して意思疎通を図っている。加えて、1年... - メンバーミーティングを毎月定例で開催している。法人や事業所の行事案内や前月分の工... - 毎日行う朝のミーティングでは「一人一言」の時間を設け、利用者と職員は自分の伝えた...	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A ⁺
【講評】詳細はこちら - レストラン事業を作業内容としている。作業内容は①仕込み(調理等)②営業準備(清掃... - 工賃支給の方法は、「工賃支給の方法」によって全利用者に書面で周知している。毎月開... - 作業内容はメンバーミーティングで出された意見を受け、より多くの、より幅広い利用者...	
3. おいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A ⁺
【講評】詳細はこちら 「食の保障」が重要と考え、レストランを事業内容に決定した経緯があり、基本に沿った... - 食事時間は、作業形態から交代制となっている。朝のミーティングで各自の食事時間帯の... - 家庭での日常的な食事への配慮も行っている。事業所を欠席する場合も事業所の弁当を割...	
4. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A
【講評】詳細はこちら - 体調悪化時のサインと対応への希望を定期面談で確認している。毎日の朝ミーティングで... - 作業中に疲れた表情があった時や集中できない様子が見られた時には、職員から休憩を取... - 年に1回、都の保健所で健康診断を実施している。必要に応じて、結果を利用者に個別に...	
5. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	A ⁺
【講評】詳細はこちら - レクリエーション活動とクラブ活動をそれぞれ月1回行っている。クラブ活動はコーラス... - メンバーミーティングを月1回、開催している。利用者の中で書記と司会を決め、レクリ... - クリスマス会やバザーなど大きな行事は、3ヶ所の事業所合同で開催している。メンバー...	
6. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A
【講評】詳細はこちら - 家族への連絡は、利用者の希望がある場合に限って行っている。利用者の平均年齢は40... - 利用開始時、及び定期面談では、緊急の場合に備えて家族など、連絡先を確認している。... - 三鷹市内には、地域の精神障害者家族会「あおき会」があり、利用者家族も入会している...	
7. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A ⁺
【講評】詳細はこちら - 事業所内の一角はギャラリーと情報コーナーになっている。幅広い市民の活動発表の場で... - メンバーミーティングや朝ミーティングでは、地域で行われる様々な行事や研修などを積... - 必要に応じ、社会資源の利用支援を行っている。ヘルパー講習会などへの参加申し込みの...	

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

[評点の見方](#)

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [利用者調査結果](#)

利用者調査結果

▼調査概要

▼調査結果全体のコメント

▼調査結果

平成17年度

精神障害者小規模通所授産施設

事業所名称	食茶房むうぶ
評価機関名称	社団法人 東京社会福祉士会
利用者調査実施期間	2006年1月13日～2006年2月20日

調査概要

- **調査対象**：調査日現在、事業所に利用登録を行っている24名のうち、入院中などの理由で長期に欠席をしている3名を除く21名を対象とした。
- **調査方法**：調査対象者全員に無記名でのアンケート調査を行った。アンケート用紙と封筒の配布及び説明は、メンバーミーティングの場を利用して、職員から行っていただいた。アンケート結果の回収は評価機関への直接郵送とした。作業の見学も行い、現場の状況も併せて確認した。
- 利用者総数：24人
- 共通評価項目による調査対象者数：21人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数：19人
- 利用者総数に対する回答者割合(%)：90.5%
- 調査項目：[共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

調査結果全体のコメント

調査結果によると、ほぼ全員が事業所の提供するサービスに対し「満足」「どちらかといえば満足」と答え、満足度は非常に高くなっている。「決めた事を大切にしてくれる」「日常生活への気遣いがある」では、8割以上の人が「はい」と回答し、その他のほとんどの評価項目でも7割以上が「はい」と答えており、職員の対応や取り組みが充実したものであることが窺えた。とりわけ9割以上の利用者が「プライバシーが守られている」と回答しており、事業所がプライバシー保護への配慮を十分に行っていることが確認された。一方、施設の設備面と安全面は、作業内容が厨房内外の立ち仕事であるため、「どちらともいえない」とする利用者が見られた。不満への対応で「はい」との回答がやや低めであったが、事業所の方針として利用者が自ら対人関係の問題を解決するよう促していることの現われと考えられる。自由回答では、通所してよかった、生活のリズムができた、職員がやさしい、などの声があがる一方、利用者間の対人関係のストレスを表明する意見もみられた。

[このページの一番上へ](#)

調査結果

※読み上げソフトをご利用のかたへ
パーセンテージの読みあげは「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「無回答」の順番で読み上げられます。

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

1.施設の中は安全に動けるようになっていますか	36.8%	57.9%	5.3%	いいえ:0.0%
2.施設は清潔で快適ですか	63.2%	26.3%	5.3%	5.3%
3.あなたがやってみたいと思うような仕事や活動内容になっていますか	73.7%	15.8%	5.3%	5.3%
4.施設に来ることで、安定して毎日が過ごせるようになりましたか	78.9%	10.5%	5.3%	5.3%
5.就労意欲が湧いてくるような活動や支援がありますか	73.7%	21.1%	5.3%	いいえ:0.0%
6.仲間と交流できるような場所や機会などがありますか	68.4%	26.3%	5.3%	無回答・非該当:0.0%
7.仕事は楽しいですか	63.2%	36.8%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
8.工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されていますか	73.7%	15.8%	10.5%	無回答・非該当:0.0%
9.施設の職員に気軽に相談できますか	78.9%	15.8%	5.3%	無回答・非該当:0.0%
10.施設職員以外の人にも相談できることの案内がありますか(通院先・入所先の職員や区市・苦情受付の第三者委員など)	63.2%	10.5%	21.1%	5.3%
11.職員は他の人に知られたくないあなたの秘密を守るなど、プライバシーを守ってくれますか	94.7%	5.3%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
12.あなたは施設で人権が尊重されていると思いますか	57.9%	31.6%	10.5%	無回答・非該当:0.0%
13.職員はあなたの決めたことを大事にしてくれますか	89.5%	5.3%	5.3%	いいえ:0.0%
14.職員はいつも同じように接してくれていますか	78.9%	15.8%	5.3%	いいえ:0.0%
15.利用者同士がうまくいかないときに、職員は間に立って対応してくれますか	73.7%	26.3%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
16.施設では、あなたの日常生活への気遣いがありますか	84.2%	15.8%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
17.あなたの目標又は計画をつくる時、職員はあなたの希望や意見を聞いてくれましたか	78.9%	21.1%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%

18.あなたの目標・計画、状態に合わせた手助けがありますか	68.4% 26.3% 5.3% 無回答・非該当:0.0%
19.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】利用する前に、施設での生活や支援内容など、知りたいことについてわかりやすい説明がありましたか	70.0% 30.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
20.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設のサービスなどの考え方を知る機会(説明、掲示など)がありましたか	60.0% 40.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
21.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設の説明を聞いて、自分で施設を利用することを決めましたか	90.0% 10.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
22.あなたは不満や要望を職員に気軽に話すことができますか	63.2% 26.3% 5.3% 5.3%
23.職員は不満や要望に対してきちんと対応してくれていますか	57.9% 36.8% 5.3% いいえ:0.0%

■ はい
■ どちらともいえない
■ いいえ
■ 無回答・非該当

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > リーダーシップと意思決定

リーダーシップと意思決定

講 評

地域の社会資源がない頃から、一般市民が中心となって精神障害者の作業所を立ち上げてきた経緯の中で、早くから利用者を地域で支えるという事業の基本理念をまとめていた。社会福祉法人設立に際して定めた定款の事業目的では、「利用者の意向の尊重」「自立した生活を地域社会で営むことができるように支援する」などを上げており、基本理念を反映したものと言える。ボランティアとの関わりや年1回行うバザーも、理念に基づいて開始し、継続して実践しており、一貫した事業展開、事業運営となっている。

法人化や、自立支援法の施行等、事業を取り巻く基盤が大きく揺れ、課題が次々と押し寄せる中で、毎月に近いペースで理事会を開き、理事が全員参加で実質的な運営を担っている。施設長である理事と、アサーティブ・トレーナーや元保健所長などの専門性を有した理事が、長期短期の課題の抽出や問題の理解、職員の研修の実施等に積極的に関わっており、自らの専門性を職員に還元している。また、長期的な経営課題も認識し、職員に責任をもって伝えており、理事と職員の一体感が強く見られる。

年3回発行される法人広報誌「むうぶ舎だより」は、利用者やその家族、関係者、一般市民に配布し、活動方針や活動内容をわかりやすい言葉で伝えている。活動紹介の中では、利用者自身も自らの言葉で意見を述べている。配布先は、利用者や関係機関だけではなく、コミュニティセンターなどの一般市民の目に触れやすい場所も含んでいる。新聞・雑誌や、市報、都広報などの取材も積極的に受け入れ、折あるごとに取り上げられており、広く法人の理念の周知に努めている。

[このページの一番上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A ⁺
標準項目	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み	むうぶ舎発足10周年には記念誌を出版し、法人の理念や基本方針を明文化して、広く販売している。加えて新聞・雑誌や地元ケーブルテレビ、市報、都広報などの取材に積極的に応じることで、事業所の目指していることを利用希望者、一般市民に広く伝えており、標準を超えた取り組みである。

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A ⁺
標準項目	○ 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	○ 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み	毎月に近いペースで理事会が開かれ、課題の抽出や問題の理解に努め、事例検討にも積極的に取り組んでいる。理事は、専門性を生かして、職員面談やスーパービジョン、職員研修の講師を自ら行っている。理事の一般的な役割を超えた取り組みである。

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A ⁺	
標準項目	○	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	○	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	○	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み	事業計画の策定や利用契約書の改訂などの重要な案件について、職員会議と法人理事会の間で双方向の意見の交流が行われ、理事会は実情を確実に把握し、職員は経営層の考えを理解する仕組みが作られ、職員、理事が一体となって事業に取り組む姿勢ができている。	

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)
【問合せ】メールアドレス:fukushiit@fukushizaidan.jp 電話:03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 経営における社会的責任

経営における社会的責任

講評

市内に精神障害者の家族会もなく、社会資源も乏しい状況の中で、暮らしやすい街づくりの試みの中から生み出してきた事業であり、常に市民に開かれた姿勢、地域の福祉の向上の一翼を担う姿勢で、活動に取り組んでいる。市内で、統一した福祉関係者団体の発足にも関わり、その後の活動にも小規模事業所の制約がありながら、中心的に関わっている。市にも積極的に働きかけを行い、他事業所とも協働の姿勢をもって、国や都の施策を踏まえながら現実的な方策を工夫し地域資源を着実に増やしている。

ボランティアの受け入れは、中学生の職場体験や夏体験ボランティアなど、心安らぐ街づくりへの努力の一環として行っている。保健所や社会福祉協議会と協働して精神保健ボランティア講座を立ち上げ、講座参加者の実習を受け入れるだけでなく、講座への講師派遣もしている。実習についても、医大生、保健師や精神保健福祉コースの学生など医療福祉を担う人材の育成に継続的に協力している他、ヘルパー実習や教員10年研修など、幅広く受け入れている。

事業所自身が安心できる食材を使用した食を、比較的手軽な価格で地域住民に提供しており、固定客も多く、食の安全を啓発する役割も果たしている。また、食材として使用している各地の自然食品を材料のままでも販売することで、生産者には販路を提供している。施設設備を利用した「ものづくりの会」の後援や、レストランの食事メニューを料理本にまとめて市民に向け販売を行い、さらに、市民に施設の一面をギャラリーとして貸し出し発表の場を提供するなど、常に市民を意識した活動を幅広く行っている。

[このページの一番上へ](#)

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点	A	
標準項目		福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
		全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
A+の取り組み		

2-1-2. 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点	A+	
標準項目		第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
		透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
A+の取り組み	施設内の一面をギャラリーとして市民に貸出しを行い、レストランの客とともに、常に一般市民が事業所内に入り出す雰囲気を意識的に作り出し、透明性の確保に努めている。	

2-1-3. 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点	A+	
標準項目		実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている
		効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している

A+の取り組み

医大生を始め、保健師コース、精神保健福祉士コースの学生等、将来医療福祉の中核となる人材の実習とともに、地域の福祉基盤の向上を担うホームヘルパー実習や、教員10年研修など、多様なニーズに応え、それぞれに応じたプログラムを用意している。

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点	A ⁺	
標準項目		事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
		地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
A+の取り組み	提携先から仕入れ、食材として使用している自然食品や無農薬野菜などを材料のまま販売し、地域に対し、安心できる食を提供するネットワークの一翼を担っている。	

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点	A ⁺	
標準項目		ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している
		ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
		ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
A+の取り組み	社会福祉協議会や社会教育会館、都・市の保健センターとともに、市の精神保健ボランティア講座の立ち上げに参画し、講師派遣や実習の受け入れを行い、各関係機関と共に活動を継続している。	

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評点	A ⁺	
標準項目		地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
		地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み	市内に家族会がなく、また統一された福祉関係者の団体がなかった時代から活動を始め、市内の障害者福祉懇談会の設立に寄与し、統一した福祉関係者の団体として市の福祉計画策定に参画するまでに至らした。	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

講 評

利用者の要望を聞く機会を、毎朝のミーティング、毎月のメンバーミーティング、個別相談、定期面談、3所全体ミーティングと、重層的に持っている。また、言い出しにくい利用者もいることを踏まえて、意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。出てきた要望については、現場レベル、施設レベル、法人レベルで検討し、できることはその期限を、できないことはその理由を伝えるなど、真摯な対応が見られた。利用者調査でも、7割以上が「やってみたいと思うような仕事や活動内容になっている」と答え、利用者意向を作業に反映している様子が窺われた。

精神障害者地域支援連絡会、障害者福祉懇談会、保健所業務連絡会、社会福祉協議会厚生部会、住民協議会などの市内の各種連絡会や勉強会、また東京都精神障害者作業所連絡会や多摩就労研究会などの広域の会にも、同一法人他事業所の職員と分担して積極的に参加することで情報を収集し、職員会議や報告書を通じて職員への周知に努めている。行政や議会の情報収集に努め、議員との懇談も行っている。障害者自立支援法については、審議段階から、単に情報を集めるだけではなく、理解を深めるための研修会をたびたび行っている。

障害者自立支援法の成立を受け、昨秋には、利用者の福祉サービス利用状況や利用者負担可能額、現在の負担の実態などに関する緊急アンケートを、三鷹市障害者福祉懇談会として共同で実施し、年末には、利用者の自立支援法に関する要望までを含めて140名分の集計結果と提言書を行政へ提出した。精神障害者地域支援連絡会としても、233名の利用状況調査を行った。受身に情報を収集するだけではなく、利用者と直接接する立場から情報を集め、分析し発信していく姿勢は、高く評価できる。

[このページの一番上へ](#)

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A ⁺
標準項目	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
	利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取り組み	メンバーミーティングなどで出された要望は、職員会議で検討し、すべての要望に対し、出来ることはその時期を、出来ないことはその理由を付して明文化し、すべての利用者にもれなく伝えている。

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A ⁺
標準項目	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
	事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
	利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取り組み	利用者の意向を受けて随時サービス内容を検討している。将来の潜在的な利用者も考慮しながら、作業種類の多様化、短縮作業の導入を図り、利用者の意向を作業内容の検討に取り込んで見直しを行っており、利用者の意向を積極的に作業の見直しに繋げるという、一歩進んだ取り組みを行っている。。

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	A ⁺	
標準項目	○	地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
	○	福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
	○	事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
A+の取り組み	障害者自立支援法の成立を受けて、障害者福祉懇談会や精神保健作業所連絡会として共同の緊急アンケートを実施し、利用状況や利用料金負担額や利用者の希望などを法への対応の資料として市に提出した。	

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)
【問合せ】メールアドレス:fukushiit@fukushizaidan.jp 電話:03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 計画の策定と着実な実行

計画の策定と着実な実行

講 評

授産収益や通所人数、新規受入れ人数の目標を年度の計画として数値化し、毎月の報告を経て、必要であれば計画の見直しを行っている。予算についても、上半期の執行状況に応じて補正予算を立てており、計画・実行・検討・修正のサイクルを年度内でも実施し、的確な対応を迅速に行っている。障害者自立支援法の施行を控え、事業基盤が大きく変わることが予想されるが、情報収集に努め、わかっていることについては長期計画にはめこんでいくことで不確実性を少しでも減らす試みを行っている。

利用者との定期面談で緊急連絡先や病院などの関係機関を確認し、災害時に備えている。定期的な防災訓練も実施している。事業を始めた頃に利用者がやけどを負う事故があったことを踏まえて、作業手順を明確にし、その後大きな事故は起こっていない。衛生面においても就業日前の入浴や毎朝の清潔確認を行っている。利用者の特性、能力の他、その日の体調にも留意しながら作業分担を決め、場合によってはその日の朝に変更を行うと共に、作業中は職員が利用者の動きに留意し、声かけを適宜行うなど、安全の確保に努めている。

個別援助計画、所内職員会議での検討結果、各所報告等の情報を、施設長も参加する理事会にあげ検討を加えている。その結果を、再び職員会議にかけ、他の理事の意見を施設長が職員に伝えることで、双方向の視点を確保している。工賃をあげたいという利用者の希望に添う内容であっても、そのための現場での仕組みの変更が利用者自身に与える影響への配慮が指摘されたり、提供する食事の価格設定に際しても、多面的な検討が必要であるなど、適切な示唆を加える仕組みになっている。

[このページの一番上へ](#)

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点	A
標準項目	○ 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	○ 年度単位の計画を策定している
	○ 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み	

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点	A ⁺
標準項目	○ 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	○ 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	○ 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している
	○ 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している
A+の取り組み	利用者個別援助計画、所内職員会議での検討結果、各所報告等の情報を、理事会にあげる一方、理事会での検討結果を職員会議で再検討するという双方向からの検討を繰り返し、計画を策定している。また、理事はそれぞれの持ち場で、職員は分担して出席する多様な会議などで様々な課題や情報を捉え、それらを会議の場で共有し検討することで、多角的視点での問題認識と解決に向けた取り組みが可能となっている。

4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点	A ⁺
----	----------------

標準項目	○	計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している
	○	計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	○	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している
	○	計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
A+の取り組み	予算についても、上半期の執行状況に応じて補正予算を立てており、計画・実行・検討・修正のサイクルを年度内でも実践し、的確な対応を行っていることは、小規模事業所としては他に類をみない。	

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	○	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
	○	再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 職員と組織の能力向上

職員と組織の能力向上

講 評

職員研修について今年度は、特に事業方針にも掲げ職員の能力向上に努めている。理事会がリーダーシップを取って、援助の基本姿勢についての研修を改めて行い、日常的に意識化するようにしている。対人援助の専門職は、個人の能力に依存する面が大きい、長期的な人材育成の計画を持って、ソーシャルワーカーの倫理綱領を人材像のモデルとし、技術だけではなく基本姿勢にまで戻って研修を深めていく姿勢は高く評価される。

研修の講師やスーパービジョンの実施者については、法人として情熱的な努力を行い、医療福祉系の大学教授など質の高い人材を確保している。また、理事自身による職員へのスーパービジョンや個別フォローアップ面談を通して、各自の目標や今後に向けた意欲なども把握しようと努めており、チームワークまで含めた振り返りを行っている。このような努力により、職員の良質な支援が可能となり、厳しい事業環境にも関わらず、職員の定着率は高くなっている。

レストランという事業の特質上、調理作業補助を行う非常勤職員は、立ち上げの時から関わったボランティア的な性格を持ち、常勤職員との役割分担を明確にしている。週1回勤務が原則であり、利用者との関わりや今後の事業運営の方向性について、必ずしも理解が十分ではなく、自身、理解していないという不安を持つ職員もいる。今後、障害者自立支援法の施行に伴い、常勤職員の負担が増すことが予想される中で、非常勤職員の位置付けについて再検討を進めており、一層充実した体制につながる事が期待される。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A ⁺
標準項目	○ 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	○ 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている
	○ 適材適所の人員配置に取り組んでいる
A+の取り組み	おおむね3年を経た段階で、法人内の施設を異動したり、年齢に関わらずに施設長に登用するなど、年功序列的な人事配置ではなく、中長期的な人材育成に重点をおいて人事配置を行っている。

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	A ⁺
標準項目	○ 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	○ 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している
	○ 個人別の育成(研修)計画をふまえ、OJTや研修を行っている
	○ 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	○ 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A+の取り組み	個人別育成研修計画を理事会として決定し、理事が講師となるのみならず、研修の講師やスーパーバイザーの確保も積極的に行った結果、質の高い人材を獲得することができ、専門性の高い職員の育成に繋がっている。

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	A ⁺	
標準項目	○	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	○	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	○	職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
A+の取り組み	個人情報保護法や、障害者自立支援法についての研修を、職員からの希望を受けて法人として何回も実施している。現場での必要性を踏まえ、背景や具体的な内容にまで踏み込んだ数々の研修を法人として企画、実施しており、常勤職員が全員参加することで、一方的な研修ではなく、自ら参加し、考えを構築できる内容になっている。	

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	A ⁺	
標準項目	○	事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている
	○	就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる
	○	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	○	福利厚生制度の充実に取り組んでいる
A+の取り組み	「利用者が安心できる施設運営を実施するためにサポートする」「職員チームが円滑に運営できるようサポートする」を理事会方針として打ち出している。理事会が職員を支援する方針を明文化したことで、職員の支援を受けている安心感と働く意欲の向上に繋がっており、画期的な方針である。	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 情報の保護・共有

情報の保護・共有

講 評

小規模授産施設は、個人情報保護法の適用事業所ではないが、運営管理規定、利用契約書、就業規則の整備はもちろんのこと、対人援助の専門職としての守秘義務を発展的にとらえる形で、個人情報の保護に関して繰り返し精力的に職員研修を行い、日常運営に役立つ形での研鑽を深めている。利用者アンケートでも9割以上が、「職員は他の人に知られたくない秘密を守るなど、プライバシーを守ってくれる」と回答しており、人権尊重の立場に基づいて個人情報の保護が適切に行われている。

個人情報の保護について、職員のみならずボランティアにも口頭で説明を行っている。利用者の間での情報交換は認めているが、職員から情報提供することはしていない。事業所は仕事の場であり、プライバシーの場とは一線を画した姿勢で対応している。また、利用者にも実習生やボランティアの受入れを行っていることを利用契約書に明記して伝えるなど、街の中で暮らす利用者を支える事業所として、地域社会と交わり合う日常生活を前提とした配慮が行われている。

利用者の個人情報は紙媒体で管理しており、記録類は特定の部屋で鍵付きのロッカーで保管している。支援方針を検討する会議などの参加者も、個人情報保護を意識して参加メンバーを選んでいる。現在は個人情報はコンピューターには入れておらず、外部との接続もしていないが、近い将来にコンピューターによる個人情報の取り扱いが必要となることも予想されるため、メールやインターネットの取り扱いも含めて想定した、アクセス権限の設定・管理の検討が望まれる。

[このページの一番上へ](#)

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A
標準項目	情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している
	収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
	保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み	

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している

評点	A ⁺
標準項目	事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	個人情報の保護に関する規定を明示している
	開示請求に対する対応方法を明示している
	個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み	個人情報保護法の義務事業所ではないが、法の趣旨から実際の対応や取り扱い方まで含めた研修を再三にわたって行い、職員の理解を深めている。個人情報の問い合わせなどについては、もれなく利用者の同意を得ており、優れた取り組みが実施されている。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > カテゴリー1～7に関する活動成果

カテゴリー1～7に関する活動成果

講 評

理事会が果たす事業運営での役割を文書化することで、理事、職員間の共通認識と信頼関係が一層深まった。理事会と職員会議は、役割分担を明確にしたうえで、連携は強化され、適切な運営を行っている。特に、研修における理事の役割は大きく、職員のスーパーバイザー機能を果たすなど、職員の心の支えとしての役割を持っていることが確認された。特に、理事長は職員との個人面談を定期的実施するなど、業務の現状理解を深め、職員の意向を確認しながら事業展開を行っており、その責任ある姿勢は特出している。

利用者が学習会や集会に参加した後、事業所に戻って利用者が自ら報告を行う機会を設けることで、他の利用者への良い影響が出ている。参加できない利用者にとっても、生の情報を聞くことで、社会参加への動機付けになっており、仕事に対する意欲をも高めている。また、今年度、「メンバーミーティング報告」を書面化し、行事、営業計画、トイレ当番、売り上げ、フリートークなど、ミーティングで確認した事項をメンバーが共有しやすいよう取り組みを行った。文書化することで、利用者の意見は全員に周知しており、意向を尊重する仕組みが確立した。

職員勉強会に力をいれ、「個人情報の取り扱い」の学習会や、「自立支援法」の勉強会を開催した。また、市内の障害者団体との連携をとり、勉強会や懇談会の開催が実現できた。特に、「個人情報の研修会」は、職員が改めて個人情報保護を認識する機会になり、問題点の分析から、対策まで自らの課題として捉える試みを実施できた。さらに、今回の第三者評価受審をきっかけにして、利用者は自らの意見を外部に積極的に表明するようになり、職員は自己評価を通じて業務を整理し、今後取り組むべき課題が明確になったと捉えている。

[このページの一番上へ](#)

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

評点	A ⁺
改善の成果	理事会において事業方針を明文化し、理事会が計画的・主体的に事業運営に関わるようになった。そのことが、責任の所在の明確化と、理事への信頼感を強めた。個人面談やスーパービジョンなど理事の積極的な関わりは、職員のやる気向上につながり、相乗効果が生まれている。とくに、理事会の役割を確認し、理事と職員が一体となって事業運営に取り組む姿勢は、高く評価できる。

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

評点	A ⁺
改善の成果	経費削減のため職員の人数を削減したが、職員の努力により利用者には大きな影響もなく、援助の継続性が確保できている。職員の質を維持するために、課題分析を行い、専門性を高める役割を果たす研修を定期的に企画した結果、一人ひとりの職員の処遇の質が着実に向上している。取り組みは、利用者の満足や地域関係機関からのプラスの評価に繋がっている。また、研修企画は職員の要望を取り入れ、理事は各界の第一人者を講師として依頼している。

[このページの一番上へ](#)

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」

評点	A ⁺
改善の成果	利用者の要望を受け、作業内容を多様化し、参加しやすい、多様なニーズに応じられる体制を作った。特に、遅番や短時間作業、店内美化作業などを設けたことで、利用者の選択が広がっている。また、メンバーミーティングの充実を図り、利用者がフリートークで自由に発言できる場を持ち、出された意見に対し書面での報告を行ったことで、事業所への要望や意見が活発に出されるようになった。

[このページの一番上へ](#)

8-4-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

評点	A
改善の成果	今年度は具体的な財務成果は出ていないが、次年度、または、長期的な財務の安定のために、常勤、非常勤のバランスを取った職員の採用や配置変更を行なった。また、財務的に大きな影響が予想される、障害者自立支援法の学習会を開催し、情報の収集と対策についての取り組みを始めている。

[このページの一番上へ](#)

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

- ・カテゴリ3:「利用者意識や地域・事業環境などの把握」

評点	A ⁺
改善の成果	市内の連絡会や勉強会に積極的に参加し、情報を集めるだけでなく、その運営に大きく関わっている。利用状況や利用料金負担額などに関わる緊急アンケートを、障害者福祉懇談会や精神保健団体と協同で実施し、障害者自立支援法への対応の資料として行政に提出した。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービス情報の提供

サービス情報の提供

講 評

利用希望者が入手できる施設情報として、「パンフレット」、「むうぶ舎だより」がある。パンフレットは、毎年見直しを行い、利用者や関係者の意見を取り入れて最新情報に更新している。パンフレットの記述は、利用者をむうぶ舎のメンバーとして位置づけ、メンバーがむうぶ舎を利用し、働く場として選択できるように編集され、利用者が一緒に働く仲間に声をかけをするような構成になっている。年3回発行される「むうぶ舎だより」は、法人で実施しているサービスについて詳細に報告し、利用者の声や、行事の様子などを写真を交えた編集となっている。

「パンフレット」「むうぶ舎だより」は、多くの市民の目に留まるよう、広く病院、コミュニティーセンター、行政機関などに置いている。また、都や市の広報誌でも度々取り上げられ、事業所は一般に広く認知されている。また、病院デイケアなどに職員が赴き、利用者の作品を紹介し、作業所の様子を具体的に伝えることで、周知とともに利用に際しての不安除去に努めている。さらに、職員が病院や市役所、家族会を定期的に訪問し、施設紹介をするなど、積極的な広報活動を展開している。

見学希望者には、予約した日に担当職員が30分程かけて施設見学と説明を行い、質問や疑問に丁寧に答えている。体験通所に繋がる場合には、同じ担当者が利用者、家族に対応することで安心した利用へ結びつくように配慮している。また、体験通所は週に一度のペースで行うことで、利用者が実際の作業を体験し、利用者同士の交流や仕事内容、体力や体調などを事前に確認できるようになっている。また、関係機関との繋がりが無い場合には利用前の相談を薦めている。関係機関と連携を取り、丁寧な受け入れが行われている。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A ⁺
標準項目	○ 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	○ 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	○ 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○ 利用者の問い合わせや見学(可能な場合)の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み	・利用希望者のみならず広く一般に向け施設の周知を行い、精神障害者のノーマライゼーションの理念を積極的に伝えている。事業所の取り組みは、福祉関係に留まらず一般の雑誌やケーブルテレビからも多く取材を受け、広く周知されている。また、むうぶ舎の10周年を記念して編集した記念誌は、店頭で販売され、多くの市民が手にできるようになっている。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービスの開始・終了時の対応

サービスの開始・終了時の対応

講 評

サービスを利用する手順は、「正式入所手続きについて」に記しており、利用予定者に事前に渡している。利用手続きでは、見学、体験通所、申し込み、入所手続き等、入所までに利用者が行なうプロセスを説明している。見学は、予約制を取り、事前に担当者が準備をして受け入れ態勢を整えている。見学、体験通所前には、主治医、病院ソーシャルワーカー、保健師、行政ケースワーカー等の関係者から、利用希望者に対して事前に概要が説明がされ、見学などに際しての不安の軽減を図っている。体験通所は、1か月週1回の緩やかなペースで行っている。

体験利用が終了する前に、正式な通所について検討を行っている。利用者、担当者、関係者の調整をし、最終的には利用者の意思を尊重し決定している。正式な利用契約は、医師の意見書を確認した後、利用者本人の署名、捺印により行い、利用契約書の読み合わせでは、利用者の権利と事業所内での約束について丁寧に説明している。決まり事は、別紙「食茶房むうぶ利用のきまり」を使って確認している。利用に伴う費用や工賃、準備するものについては、納得を得られるよう十分な説明を行うようにしている。

利用前の面接から体験通所、正式入所まで、一人の担当者が一貫して対応することで、継続性をもった利用者支援ができています。そのことは、利用者の安心にも繋がり、利用に結びつかなかった場合でも支援体制が構築できる利点となっている。また、サービス終了は「卒業」と捉え、個々の状況に応じてその時期を検討している。卒業時には、必要に応じて関係機関と密接な連携をとり、利用者をサポートする体制を準備している。さらに、卒業した利用者からの相談に乗ることもあり、関係の継続性が確認できた。

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A
標準項目	☐ サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	☐ サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	☐ サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A ⁺
標準項目	☐ サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	☐ 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	☐ サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	☐ サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み	・週に1回1ヶ月に及ぶ体験通所は、利用者に施設サービス内容を十分に伝えた上で、複数回の体験を踏まえて選択を行う体制であり、利用者の体力や特性を配慮した支援となっている。丁寧な受け入れ態勢は標準を超える取り組みと言える。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 個別状況の把握・記録

個別状況の把握・記録

講 評

利用者の状況を理解するために、入所当初は担当職員を決め、密接なコミュニケーションをとっている。医療情報や関係機関の利用状況についても必要に応じて聞き取り、主治医の診断書を基に、健康状態の確認を行っている。運営管理規定で支援計画については、少なくとも年1回以上は作成する事を定めており、利用者と面談の上、職員と一緒に「利用継続シート」を作成している。また、「利用継続シート」では、継続的に利用者の希望・要望が確認できるよう配慮している。

支援計画は、担当職員に申し出ること、変更、見直しできる旨伝えている。体調の変化など、職員が支援計画の変更の必要性を確認した場合には、利用者と面談を行い、変更の必要性を説明し同意を得ている。職員会議において検討が必要である場合は、事前に会議で話し合うことを説明し、利用者から同意を得て実施している。こうした細心の配慮により支援計画を立てていることは、意見を尊重されていると利用者からも支持を受けており、調査でも高く評価する声が確認できた。

一人ひとりの記録を充実したものとするため職員会議の場を使い個人記録を記している。個人記録の管理は常勤の職員が行い、非常勤の職員には口頭で注意事項や連絡事項を伝え、個人情報や職員が中心に把握している。記録は、作業の参加記録や個人の面談記録など、項目毎に分類し、利用者の状況とスタッフの支援内容、さらに、その結果を記している。申し送りは、全員の当日の役割分担を一覧にした日々のシフト表を活用しており、全職員、利用者が作業に関する情報を共有し、伝達ミスを防止する対策を講じている。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A ⁺	
標準項目		利用者の身体状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
		利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
		アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A ⁺ の取り組み	・利用継続シートにより、定期的に利用者のアセスメントを行なっている。支援計画は、利用者と職員が共同して作成し、利用者が自らの問題を、点検、分析できるよう職員が支援を行なっている。利用者が主体的に取り組む課題分析は、サービス場面での成果に結びついており、優れた取り組みである。	

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A ⁺	
標準項目		計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
		計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
		計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
		計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している
A ⁺ の取り組み	・個別支援計画の作成にあたっては、地域の社会資源をも組み込んでいる。利用者が、地域のサークルや、行事に参加することも計画に取り入れ、利用者を包括的に支援する優れた計画になっている。	

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A	
標準項目	○	利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある
	○	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点	A ⁺	
標準項目	○	計画の内容や個人の記録を、関係する職員すべてが共有し、活用している
	○	申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み	・毎日作成するシフト表は、全職員、利用者が作業に関する情報を一目で確認できる。職員、利用者が一体となって作業に向かう有効な仕組みであり、利用者を尊重する姿勢が確認された。	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

講 評

利用者のプライバシー尊重への配慮は徹底しており、個人情報の管理は常勤職員に限り管理する仕組みを作り、情報の集中管理を実施している。利用者の情報を共有する場合には、利用者本人の同意と確認を確実にし、会議で話す場合も事前に本人確認を行なっている。また、今年は、個人情報保護に関する学習会を開催し、職員の意識向上に力を入れた。学習会では、個人情報の取り扱いについて、理事が講師となり、身近な問題を取り上げて現実的・具体的な事例を踏まえた検討を行った。

利用者との定期面談は、プライバシーが確保できるスペースで実施している。また、利用者のプライバシーに関する話は作業中にはしないように配慮するなど、利用者の立場からプライバシー保護を考える姿勢が確認できた。利用者の要望は、個人面談で確認し、必要に応じて具体的な対応を行っている。特に、利用者同士の対人関係調整は慎重におこない、利用者間の関係構築を大事にした対応を心がけている。利用者からの要望は、全職員で受け止めようと職員会議の議題に上げ改善策を協議している。

理事によるスーパービジョンにより、職員の気づきが生まれ、日常の支援の再確認が可能となっている。研修や理事会では、理事から客観的な意見が出され、利用者の権利を守るためのアドバイスも行っている。こうした後方支援体制が整備できていることで、利用者の価値観を尊重した支援が実現し、職員の業務確認にも役立っている。また、非常勤職員に対する研修についても現在検討中であり、個人情報保護やプライバシーの尊重に関する学習会を実施する予定がある。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	A ⁺	
標準項目	○	利用者について他機関へ照会する際、利用者の承諾を得るようにしている
	○	日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している
A ⁺ の取り組み	・利用者の情報を照会する場合、また、利用者のプランを変更する場合などは、必ずその都度利用者に確認を行い、利用者が納得できるまで説明して同意を得ている。プライバシー保護が徹底しており、取り組みは標準を超えている。	

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A ⁺	
標準項目	○	日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している（利用者が「ノー」と言える機会を設けている）
	○	利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
	○	虐待被害にあった利用者がある場合には、必要に応じて関係機関と連携しながら対応する体制を整えている
	○	利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A ⁺ の取り組み	・日常のサービス場面で、利用者の体調を確認し、その時の体調により利用者が自分でサービスを選択するよう支援を行い、かつ、利用者自身がその時の状態に応じた参加ができるように配慮している。個人の意思を尊重した援助体制が整っている。	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 事業所業務の標準化

事業所業務の標準化

講 評

利用者への支援マニュアルは、文書化してはいないが、対応は細かく定めており、職員間での共通理解や、対応の基準を決めている。サービス場面に於ける調理手順については、それぞれに写真入のレシピができ、厨房内の見やすい場所に張っている。、利用者の役割分担は、誰が誰とどこで何をするのかまで確認でき、細かな手順が決まっている。さらに、作業時間中もすべての利用者の表情や顔色などに気を配り、体調に応じて、適宜休憩を勧め、声をかけるなど職員による臨機応変な対応が行なわれている。

サービスの標準化のため、各種の会議を行っている。朝ミーティングではシフト表に基づいて確認を行い、メンバーミーティングは結果を書面化している。いずれも利用者を含めた全員で共有している。職員間では、職員会議や作業終了後のミーティングで、一人ひとりの利用者への対応や理解について確認するとともに、個人記録を記載し、共通理解を深め、一貫した支援が行えるよう配慮している。利用者が職員を選んで相談できるよう、事業所での生活が落ち着いた時期からは、敢えて担当制を取っていない。

職員が安定した専門性を発揮できるように、定期的にスーパービジョンや職員研修を行っている。理事長によるスーパービジョンは、職員の業務評価、課題確認、支持、責任の明確化につながり、職員が安心して力を発揮できる礎になっている。また、外部講師によるスーパービジョンや、理事による専門研修を行なうなど、職員の資質向上の取り組みは高度な専門性を持って行われ、利用者支援や課題解決に結びついている。質の高い研修が継続的に実施されている。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	A
標準項目	○ 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	○ 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
	○ 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
	○ 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	A
標準項目	○ 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
	○ 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
	○ 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	A	
標準項目		打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
		職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
		職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
		職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
		職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービスの実施

サービスの実施

1. 個別の支援計画などに基づいて地域生活支援を行っている

講 評

利用者と職員は日常的な会話や相談、作業を通して意思疎通を図っている。加えて、1年に一回、定期面談を実施している。面談に際しては、職員が十分な打ち合わせを行い、利用継続シートを利用して、どの職員でも対応が可能な仕組みとなっている。面談では、利用者のこれまでの取り組みを確認し合い、課題の達成程度や事業所内での生活を振り返り、次の目標を設定している。利用者の希望や課題、抱える悩みについてもゆっくりと話し合い、利用者と職員の間で課題や目標が共有できる仕組みとなっている。

メンバーミーティングを毎月定例で開催している。法人や事業所の行事案内や前月分の工賃のお知らせの他、ピアカウンセリング講座や自立支援法に伴う動きなど、利用者に重要と思われる情報をもれなく提供している。掲示板では、他機関からの行事案内のポスターや福祉情報、地域で開催される催し物などを伝えている。また、3事業所合同で月1回行われるミーティングでは、他の事業所の様子や法人の動き、障害者を取り巻く社会情勢なども話されるなど、情報提供が積極的にかつ重層的に行われている。

毎日行う朝のミーティングでは「一人一言」の時間を設け、利用者と職員は自分の伝えたいことや体調などを話すことになっている。非常勤職員を含めた全員が一言ずつ自分の言葉で発言することで、仲間意識が形成され、雰囲気が和らぎ、また話すことへの抵抗も薄らいでいる。また、メンバーミーティングでは「フリートーク」の時間を設定し、利用者が自らの考えや意見を積極的に表明する場を確保するとともに、回答を書面で明確に行うことで、利用者からのより一層の発言を促す役割も担っている。

評点	A ⁺	
標準項目		個別の支援計画に基づいて支援を行っている
		利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
		自立生活に必要なさまざまな情報を提供している
		必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
A+の取り組み	・ピアカウンセリング講座、エンパワーメント研修会、クラブハウス勉強会、自立支援法関連の勉強会や集会への参加を積極的に呼びかけ、職員の同行も行っている。これらの情報は、利用者の生活を豊かにし、暮らしを守るために必要な情報として重要であるとの考えに基づき、情報を精査したうえで提供し、同行することで情報の確実な獲得に向け支援している。	

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講 評

レストラン事業を作業内容としている。作業内容は①仕込み(調理等)②営業準備(清掃等)③接客・喫茶(喫茶準備・接客等)④配膳・片付け(盛付・食器洗い等)⑤弁当(配達・回収等)である。利用者の特性と希望、その日の体調などを考慮し、どの作業を担当するかを決定している。作業種目を毎日シフト表として作成し、当日の仕事の流れと役割を利用者に周知している。シフト表を作成する際には、一部の利用者の負担が過重にならないよう配慮し、当日再度利用者の意向を確認し、無理のない作業に就けるよう仕事内容の交替も可能となっている。

工賃支給の方法は、「工賃支給の方法」によって全利用者に書面で周知している。毎月開催する利用者ミーティングでは、前月の売り上げと食材費、工賃総額と時給を報告している。パサー等通常業務以外の活動への参加が、作業として認められるかも事前に提示し、どこまでが仕事として工賃の対象になるかを明確にしてい

る。また、利用者の働く意欲につながるよう、ボーナスの支給を年2回行っている。支給方法の改定を行う際には事前に利用者に知らせ、合意を得ている。昨年度の平均時給は、概ね地域の最低賃金の1／2程度となっている。

作業内容はメンバーミーティングで出された意見を受け、より多くの、より幅広い利用者が無理なく作業に取り組めるよう工夫を続けている。今年度は遅番作業の内容の見直しと短時間作業の導入、新規作業の検討を行った。遅番作業は後片付け中心だったが、翌日の仕込みやケーキ作りといった内容に変更し、同時にレシピの書式の統一や買出し材料一覧を見やすい物に変更し、利用者が自ら作業に取り組めるようになった。また外回りの掃除やメニューの試作、ポスターの作成など店内美化活動も作業とし、多様な作業を準備した。

評点	A ⁺	
標準項目		利用者が活動しやすい環境を整えている
		利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している
		工賃は利用者との合意に基づいて支給している
		利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている
A ⁺ の取り組み	・利用者から出される提案や要望を受け、作業内容の改善に日々取り組んでいる。ポスター製作や試食品の作成、外回りの掃除など作業内容自体の見直しなど、利用者からの意見をみんなで検討し、作業として取り入れている。利用者が作業内容の確立に参画し、職員とともに働きやすい環境を整えていく取り組みは、利用者のやる気向上にも繋がり、標準を超えた仕組みである。	

[このページの一番上へ](#)

3. おいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

講 評

「食の保障」が重要と考え、レストランを事業内容に決定した経緯があり、基本に沿った支援を行っている。利用者は食茶房で提供している3種類の定食の中から、希望するものを当日の朝選び、割引価格で食べることができる。定食は、野菜を中心としたメニューで、栄養面・健康面で十分な配慮をしている。また、食材は有機栽培無農薬や減農薬で、食品添加物を極力押さえているため、安全性も高い。加えて温かいものは温かく、冷たいものは冷たく出来たての味を味わうことができる。食事の提供という面から考えると最も望ましい形と考えられる。

食事時間は、作業形態から交代制となっている。朝のミーティングで各自の食事時間帯の希望や体調を聞いた上で、おおよその食事時間を確認し、時間になると職員が声をかけるようにしている。食事時間は30分程度を目処とし、職員も同席するようにしている。昼食時は最も忙しい時間帯であり、全員が一同に会することはできないため、定食終了時間である2時から30分間の休憩時間を確保し、お茶とお菓子を用意して、仕事の疲れを癒し、くつろぎの時間としている。職員も必ず参加し、安心できる雰囲気作りを行っている。

家庭での日常的な食事への配慮も行っている。事業所を欠席する場合も事業所の弁当を割引価格で購入し、配達を受けることができる。当日の10時までに電話で注文を行えば、お昼までには、自宅へ配達される。電話での注文と職員からの配達は、利用者の体調確認、バランスの良い食事の提供、欠席した時にも事業所との繋がりを持つという効果が期待できる。また、弁当の容器は回収型のものを使用することで再訪問が必要であり、継続した状況確認が可能である。一連の取り組みは高く評価できる。

評点	A ⁺	
標準項目		栄養のバランスがとれた食事が摂取できるよう助言している
		食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A ⁺ の取り組み	・事業所は、「食の安全性」と「野菜中心の献立」を基本に据えた食事を提供し、自然食レストランとして様々な雑誌や新聞などに取り上げられている。また、利用者が事業所を欠席した時にも、弁当を宅配したり、レストランで食事を提供するなどして、食の保障を行っている。また、新しい献立を考えたり、試作品作成も利用者が積極的にっており、日々の活動を通じて食への関心が深まるとともに、知識も増え、日常生活の中でも食事作りという、食生活の基本が確立され、日常生活場面への応用が可能となっている。	

[このページの一番上へ](#)

4. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講 評

体調悪化時のサインと対応への希望を定期面談で確認している。毎日の朝ミーティングでは、各自がその日の体調や意欲を話す場を設けて、利用者の自己評価を促すとともに、自己管理を行う意識付けとしている。また、毎朝、シフト表で担当する作業を確認することで、「2時間立っていられるかどうか」「担当の作業ができるかどうか」といった視点で、自分の体調を再確認し、難しいと判断した場合には、作業内容の変更や休憩を取ることができる。利用者自らが体調管理を行っていけるよう考えられた効果的な仕組みである。

作業中に疲れた表情があった時や集中できない様子が見られた時には、職員から休憩を取るよう声かけをしている。作業中は、仕事に追われることも多く、自己管理が難しい場合もあるため、職員が十分な配慮を行っている。職員を昼食時間中に集中的に配置することで、利用者の負担が過度にならないようにしている。また、原則4時間が作業に従事する時間であるが、今年度から短時間作業として、2時間の勤務形態を作り、体力に自信のない利用者でも作業に入りやすくなるよう工夫した。

年に1回、都の保健所で健康診断を実施している。必要に応じて、結果を利用者に個別に説明し、見落としがちな内科的な疾患や日常生活への配慮を伝えている。また、定期面談では、服薬状況や通院先の確認、主治医との関係について確認している。事業所利用時に見られた体調不良などは、利用者に主治医への相談を促し、通院先との連絡や同行受診も希望に応じ行っている。いずれも本人の意向を確認した上で実施し、利用者が自ら健康管理をすることが重要であるという視点で支援を続けている。

評点	A
標準項目	 利用者が健康の自己管理ができるよう病気や治療の理解を深めるための支援をしている
	 必要に応じて、通院等に対する助言や支援を行っている
	 利用者が自己服薬管理できるよう助言や支援を行っている
	 利用者の体調変化（発作等の急変を含む）に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講 評

レクリエーション活動とクラブ活動をそれぞれ月1回行っている。クラブ活動はコーラスを行い、同一法人他事業所の実施するクラブ活動にも参加できる。レクリエーションは利用者の希望で内容を決め、昨年度はカラオケ・映画鑑賞・ミカン狩り・クリスマス会・一泊旅行などを行った。クリスマス会は、同一法人の3事業所合同で盛大に行っている。一泊旅行では、毎年関東近郊の温泉地や景勝地を訪ね、利用者間の交流・親睦の機会となっている。また、応援団体が不定期に開催する「ものづくりの会」には希望者が参加し、今年度は草木染体験を行った。

メンバーミーティングを月1回、開催している。利用者の中で書記と司会を決め、レクリエーションの企画、営業改善への提案、一月の売り上げと工賃など、各種の報告をしている。会議の最後にフリースークの時間を設け、事業所への要望や意見などを聞き、職員は出来ることは時期を、出来ないことはその理由を文書で伝えている。利用者の意見や要望は活発に出され、施設運営に反映するとともに、書面で残すことで周知も徹底し、利用者が職員と一体になってよりよい施設作りを推進しようとする意欲を生み出している。

クリスマス会やバザーなど大きな行事は、3ヶ所の事業所合同で開催している。メンバーミーティングで各事業所から実行委員を選出し、内容決定から準備、当日の役割分担の決定などを担っている。利用者が実行委員となることで、主体的な行事への参加となるよう取り組んでいる。月一回行われるレクリエーション活動に際しても、選出した実行委員が中心となって内容を決定している。実行委員は推薦や立候補で選び、過度な負担とならないよう、なるべく複数の委員を選出し、職員も実行委員に加わるなどの配慮をしている。

評点	A ⁺
----	----------------

標準項目		日常のプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
		室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
		日常の生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考に見直しをしている
		利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている
		行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み	・作業以外にクラブ活動を実施している。同一法人の他事業所が実施する、気功・スポーツ・パソコン・ドライブなどのクラブ活動に個人で参加できる仕組みが作られている。利用者の興味や趣味に応じて、多様な活動が選択できる。クラブ活動の情報は、休憩室内の掲示板で提供し、前日までに申し込むことになっている。	

[このページの一番上へ](#)

6. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講 評

家族への連絡は、利用者の希望がある場合に限り行っている。利用者の平均年齢は40代半ばで、家族は高齢化している。また、家族と離れ単身で生活する利用者も多い。そのため、家族に過度な負担をかけないよう、また、利用者自身の力による単身生活の継続を重要と考えているため、家族への働きかけは、利用者の要望がある時と、体調悪化などにかかわる時、法や運営の大きな変更があった時に限定している。成人した利用者への支援として、家族に過度の協力や援助は求めないという姿勢で家族との連携を行っている。

利用開始時、及び定期面談では、緊急の場合に備えて家族など、連絡先を確認している。確認した連絡先は利用継続シートに記載し、緊急時には速やかに連絡が取れるようにしている。定期的な家族会を実施していないが、希望する家族には「むうぶ舎だより」を送付し、事業所の様子を定期的に伝えるとともに、必要に応じて電話相談や来所面接も実施している。また、2003年の法人設立時には家族への説明会を実施している。本年4月の自立支援法施行に伴い、自己負担等に関する家族向け説明会の開催を検討中である。

三鷹市内には、地域の精神障害者家族会「あおき会」があり、利用者家族も入会している。定例会には、職員が毎回参加し、むうぶ舎全体の活動紹介を行い、家族会の会員に対して事業所内の様子を伝えている。家族会はむうぶ舎と同時期に発足したこともあり、長く友好的係わりを続け、信頼関係を築いてきた。継続的な家族会への参加は、会との連携に留まらず、会合に参加した家族からの相談を受けるなど、家族との交流の場となっている。一法人の職員が地区家族会に毎回定期的に参加するという積極的な取り組みは、高く評価できる。

評点	A	
標準項目		家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
		利用者一人ひとりの状況を家族等へ知らせる手段を整えている
		必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

7. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講 評

事業所内の一角はギャラリーと情報コーナーになっている。幅広い市民の活動発表の場であるギャラリーでは定期的に作品展などが開催され、個人団体を問わず利用されている。障害者施設や市民団体の利用が多く、それぞれの施設関連情報や地域情報を提供している。また、情報コーナーでは地域行事や福祉サービスに関する各種ポスターやちらしなどが自由に置かれ、関心がある情報はいつでも手にとってみることができる。掲示板には、地域のイベント関連のポスターやお知らせを貼り、利用できる情報をタイムリーに提供している。

メンバーミーティングや朝ミーティングでは、地域で行われる様々な行事や研修などを積極的に紹介している。

ボランティアセンター・他の福祉施設・病院・市・社会福祉協議会などが開催する各種講演会や研修会は、事業所全体での参加を行わない場合でも、個別での参加を広く呼びかけている。今年度は、ピアカウンセリング・エンパワーメントの研修及び講演会へ利用者が参加した。また、休憩室内のコンピューターは、インターネットに接続しており、利用者が自由に地域サークルなどの情報収集ができる。。

必要に応じ、社会資源の利用支援を行っている。ヘルパー講習会などへの参加申し込みの支援や、地域サークル、ハローワーク、地域行事、研修会などへの同行支援も行っている。職員が同行することで、これまで参加が少なかったピアカウンセリングの研修会なども参加が進み、参加者の感想を聞いた他の利用者が高い関心を持つなどの効果もあった。今後も利用者が障害を受容しつつ、生活を豊かなものにできるよう、積極的に研修会や勉強会への参加を促すことを方針としている。

評点	A ⁺	
標準項目		地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
		必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A ⁺ の取り組み	・利用者は、法人が運営する他の2つの事業所への移籍が可能となっている。また、応援団体である「三鷹市に精神障害者の作業所づくりを進める会」主催の「ものづくりの会」では、今年度「草木染の会」を開催した。利用者や地域住民と一緒に「ものづくり」に取り組む中で、利用者の生活を助け、地域住民との係わりを作り出している。単に社会資源の利用に留まらず、数多くの社会資源を作り出し、長期に亘って地域で多様な取り組みを積極的に行っている。	

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団

【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733